

第1期八戸市美術館中期評価について

1 趣旨

令和6年度に、令和3年度から令和5年度までの事業を評価し、第1期八戸市美術館中期評価報告書としてとりまとめ、その評価をもとに第2期八戸市美術館中期運営計画（令和7年度～令和11年度）を策定した。

しかし、令和6年度に実施した事業に対する評価は未実施であることから、令和6年度に実施した事業について事業評価を行い、計画期間全体（令和3年度から令和6年度）の中期評価報告書としてとりまとめるもの。

2 今後の予定

令和7年11月～ 計画期間全体（令和3年度から令和6年度）の評価実施
令和8年3月（予定） 次回運営協議会において報告・公表

3 参考資料

第1期八戸市美術館中期評価報告書

「登録博物館」の登録について

八戸市美術館は、令和 7 年 6 月 17 日付で博物館法に基づく「登録博物館」として登録され、青森県教育委員会により告示された。改正博物館法（令和 5 年 4 月 1 日施行）による新たな博物館登録制度のもと、県内の博物館施設としては初めての登録となった。

1 登録内容

設置者の名称	八戸市
設置者の住所	八戸市内丸一丁目 1 番 1 号
博物館の名称	八戸市美術館
博物館の所在地	八戸市番町 10 番地 4
登録年月日	令和 7 年 6 月 17 日

2 登録にあたり付された意見及びその対応について

（1）意見

審査担当者からは、当館が研究紀要を発行していないため、調査研究の成果を十分に蓄積・発信できる環境が整っておらず、登録博物館としての活動が十分ではないことから、今後、紀要を整備し、順次公開に努めるよう意見があった。

（2）今後の対応について

令和 8 年度より、研究紀要を整備し、順次公開に取り組んでいく。

3 参考

（1）登録博物館になることのメリット

登録博物館となることにより、法律上の地位が付与され、信用や知名度の向上が期待できる。

また、特別交付税の申請や美術品補償制度の利用などの法律上の優遇措置を受けられるほか、文化庁による「博物館機能強化推進事業」の活用も可能となる。

（2）登録博物館になることに伴い生じる義務等

- ・博物館資料のデジタル・アーカイブ化に努めること（努力義務）
- ・関係機関との連携協力を図り、文化観光の推進など地域の活力向上に寄与するよう努めること（努力義務）
- ・運営状況について、県教育委員会へ定期的に報告すること（毎年度 6 月末まで）

市の政策における当館事業の位置づけについて

1 第7次八戸市総合計画（令和4年度～令和8年度）

市の目指すべき姿とその実現に向けた施策全般にわたる方向を示す、市政の最も根幹となる計画

○未来共創推進戦略 2025	戦略	プロジェクト	事業名
「第7次八戸市総合計画」に基づき策定する単年度戦略で、当該年度における喫緊の課題を重要課題に位置付け、それら課題に対応する事業を重点事業として、行財政資源の有効配分を図り、施策の効果を最大限高めるために策定する戦略。	【戦略4】個性豊かな魅力あるまちづくりの推進	2 スポーツ・文化が有する力を活かしたまちの魅力創出プロジェクト	共に創る！アートのまちづくり 魅力発見事業 八戸市美術館運営事業 アートファーマープロジェクト
		1 未来を拓く子ども育みプロジェクト	マチナカまるっと1日体験事業（4館連携） 文化芸術推進事業（美術館分）
			アートファーマープロジェクト
2 はちのへ創生総合戦略（令和7年度～令和11年度）	【戦略6】未来を創る子どもファーストの推進		

2 はちのへ創生総合戦略（令和7年度～令和11年度）

第7次八戸市総合計画における政策分野の枠を超えて、人口減少対策に官民が一体となって、重点的に取り組むための戦略。

○令和7年度	基本目標	施策		事業名
主要事業 基本目標1 八戸が好きになる、未来を創る「ひと」を育てる	【施策1】次代を拓く人を育む	①特色ある学校教育の充実		文化芸術推進事業（美術館分）
		③地元を知る機会の創出		マチナカまるっと1日体験事業（4館連携）
	【施策2】選ばれるまちをつくる	④文化芸術・スポーツ・観光の振興		八戸市美術館運営事業 共に創る！アートのまちづくり魅力発見事業 アートファーマープロジェクト

3 第2期八戸圏域連携中枢都市圏ビジョン（令和4年度～令和8年度）

「地域の個性が輝き自立した八戸圏域」を将来像とし、圏域の基本目標や連携事業毎の成果指標を定めたビジョン。

○将来像の実現に向けた具体的取組	取組の方向性	事業名	内容
	2. 高次の都市機能の集積・強化 ⑥高度な中心拠点の整備 広域的公共交通網の構築	美術館運営事業	各種展覧会を開催するとともに、美術館や学校での鑑賞プログラムや学校へのアーティスト派遣を行う小中高連携プロジェクト等を実施する。

4 第3期八戸市次世代育成支援行動計画 前期計画（令和7年度～令和11年度）

次世代育成支援対策推進法に基づく「次世代育成支援行動計画」と、子ども・子育て支援法に基づく「子ども・子育て支援事業計画」を併せて一体的に策定したもの。

○具体的施策	基本目標	具体的施策	事業名
○具体的施策	基本目標3 心身の健やかな成長に資する 教育・生活環境づくり	具体的施策(3) 生きる力を育てる 機会の充実	マチナカまるっと1日体験事業（4館連携）
			文化芸術推進事業（美術館分）
			アートファーマープロジェクト

参考 熊谷市長 2期目政策公約

○八戸を更に前進させる9つの政策

- 1 次代を担う若者が活躍でき、100年先も誇れる魅力あるまちづくりを推進します！
- 2 産業振興策の充実により、企業の成長を通じた魅力的な「しごと」を創出します！
- 3 観光・文化・スポーツの振興と中心市街地活性化により、交流・関係人口の増加とまちの賑わいに繋げます！
- 4 GX・DXの推進により、持続可能な社会を形成します
- 5 激甚化する災害や超高齢社会への対応など、市民の命と安全・安心な暮らしを守ります！
- 6 子育て世帯への支援・遊びや学びの環境整備・子どもの居場所づくりにより、未来を創る「ひと」を育みます！
- 7 あらゆる世代や外国人など多様な人材が活躍でき、充実した毎日を送れる社会をつくります！
- 8 市民との対話を通じて、市民目線による快適で人にやさしいまちづくりを推進します！
- 9 経営感覚を持った行財政改革により、「変革への挑戦」と「未来への責任」を果たします！

令和 7 年度事業進捗状況等について

I 上半期の主な事業

1 展覧会

①企画展「浮世絵展コンニチは タイカンする江戸文化」

浮世絵にまつわる基礎的なことからマニアックなことまで、作品や版本、版木など約 200 点の展示によって紹介。浮世絵を通して、今日(コンニチ)を見つめ、江戸文化を大観(タイカン)しながら、当時を体感(タイカン)する展覧会。

■会期：令和 7 年 4 月 19 日（土）～6 月 15 日（日）

■観覧者数：4,326 人

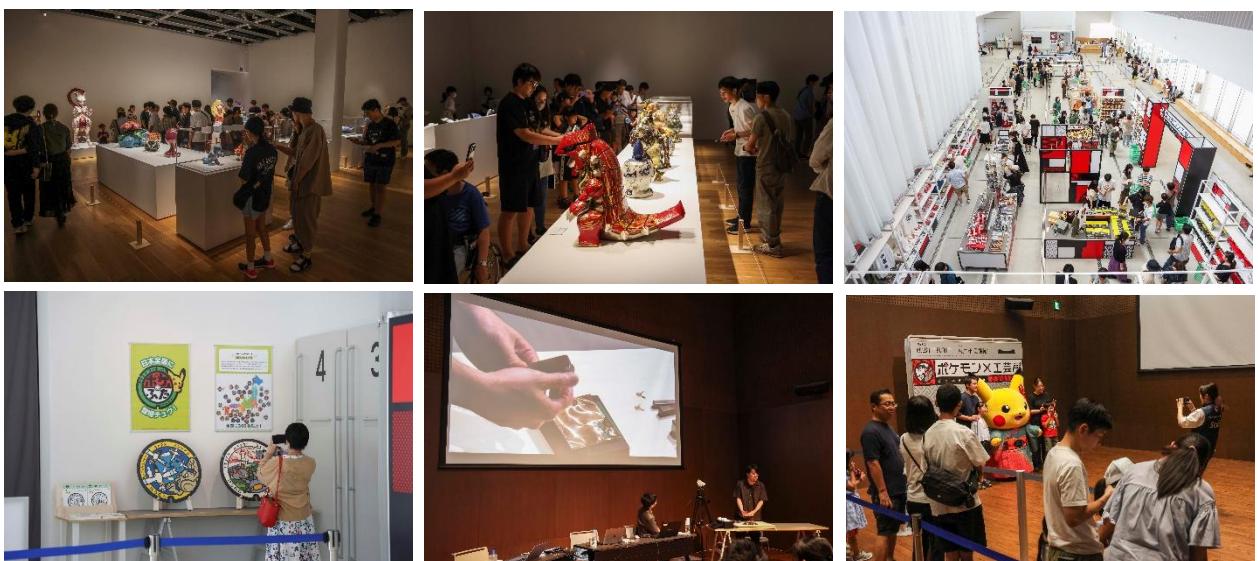


②巡回展「ポケモン×工芸展—美とわざの大発見—」

世界的に人気を集めるポケモンをテーマに、日本を代表する工芸作家たちがその美意識とわざによって表現した作品展。ポケモンのすがたやかたち、ゲームの世界観、着物や器などの日常の道具や装身具で表現した作品を展示。令和 5 年国立工芸館(金沢市)からはじまり、国内外を巡回する展覧会で、北海道・東北エリアにおいて初の開催となった。

■会期：令和 7 年 6 月 28 日（土）～8 月 31 日（日）

■観覧者数：43,081 人（旧美術館及び再開館後における最高入場者数を更新）



©2025 Pokémon. ©1995-2025 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.

TM, ®, and character names are trademarks of Nintendo.

③コレクションラボ 010 「西野こよ 表現への挑戦」

令和6年度新収蔵作品展として、南部菱刺しの復興と普及に尽力し、美術作品としての表現にも取り組んだ、西野こよの表現活動の一端を紹介。

■会期：令和7年3月1日（土）～6月15日（日）

■観覧者数：6,351人



2 アートファーマープロジェクト

（1）美術館ものづくり部体験ワークショップ

館内で気軽に創作やものづくりが楽しめる活動「ものづくり部」をスタートし、ものづくりが体験できるワークショップを開催するほか、ワークショップ日以外でも、来館時にいつでもものづくりができる「ものづくりキット」を今後考案します。

①エンジョイ！ぬり絵 DAY

ぬり絵DAYは、市内作家や工大二高美術コースの生徒がぬり絵の先生となって、配色のコツや塗り方などをアドバイス。

■日時：6/14（土）、8/9（土）、9/13（土）

■先生：漆畠幸男、工大二高美術コース生



②くにゅぎの森 魔法学校

絵を描く魔法使い・しばやまいぬ（少女板画作家・イラストレーター）の創作世界から出現する「くにゅぎの森」の世界を体験できるものづくりワークショップを開催。

■日時：6/14（土）、8/24（日）、9/7（日）



③かぎ針で絵を編む～引きそろえと細編みでタペストリーをつくろう

アーティストの加藤千晶によるかぎ針編みのワークショップで、参加者は、複数の質感が異なる糸を組み合わせて1本の糸を作る「引きそろえ」をした後、小さな編み地を作り、細編み（こまあみ）、一枚のタペストリーをみんなでつくる。

■日程 | 9月13日（土）～15日（月・祝）10:00～15:00



（2）建築ツアーガイド

ガイド役が同一の内容で案内するのではなく、ツアーコースも紹介するポイントもそれぞれ異なり、ガイド役と来館者、来館者と来館者同士で会話が弾む、八戸市美術館ならではのガイドツアー。

■日程 | 毎月最終土曜日



（3）美術館広報部

アートファーマーならではの視点や切り口で、美術館の魅力を発信する。コミュニティラジオBeFMにて、4月から「アートファーマーがしゃべってみた！」（毎月第1木曜日18:10ごろから）での広報を行なっている。また、「note」にて、美術館に関わるアーティストのインタビューや展覧会のおすすめポイントを発信。

（4）アーティストプロジェクト

西尾美也アーティストトーク～ファッショントーク～

美術家・ファッショントーラーで、装いの行為とコミュニケーションの関係性に着目して活動を行う西尾美也とのアートプロジェクトを計画し、プロジェクトのキックオフとして、西尾のこれまでの活動を紹介するアーティストトークを開催。

■日時 | 7月21日（月祝）13:30～15:00



3 学校連携事業

①全体会議（事業実施方針を確認）

■開催日時 令和7年6月19日（木）15:30～16:30

②コレクションラボ鑑賞ワークシート作成・展覧会鑑賞招待

学校連携プロジェクトメンバーで、「コレクションラボ 011 きっと、そこには」の鑑賞をサポートするワークシートを作成し、作成に携わった教員所属校の児童生徒を大型バスで美術館に招待する。

- ・ワークシート作成に参加した教員数（小学校教員2人、中学校教員1人）
- ・招待予定（小学校2校、中学校1校、計279人）

③美術館新聞部

児童生徒が美術館活動を独自の視点で取材する新聞。令和3年度から継続実施

4 大学・高専連携事業

大学資産を活用したアートの学び事業

市内大学・高専の有する専門性と、美術館の有するアートの専門性を融合させ、新たな価値や活動を生み出す「アートの学び」の提供により、人材育成や地域経済の活性化につなげる事業を展開する。

（1）高等教育機関のアートセミナー事業

八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部・八戸工業大学・八戸高専の三校の教員が講師となり、美術とは異なる分野の視点からイベントを開催する。

①第1回「ブリリアント・ミネラル」

開催日：令和7年9月7日（日）

講師：八戸工業高等専門学校 校長 土屋範芳 氏

内容：石をスライスして、顕微鏡で観察する

参加者：19名



ブリリアント・ミネラル

（2）アートマネジメント事業

芸術・文化活動と社会をつなぐために業務、もしくは方法論やシステムについて学ぶ講座を開催し、学生と社会人が一緒に交流し、様々な課題や研究テーマについてディスカッションする場を設け、学生や社会人が美術館での学びを考える講座を開催する。

①「小さい庭を造ってみよう」

開催日：①令和7年9月13日（土）、②9月14日（日）

講師：香月園 橋本 正 氏

内容：①レクチャー・プランターに寄せ植え

②レクチャー・フラワー・ポットに寄せ植え

参加者：①14名、②18名



小さい庭を造ってみよう

②「曾孫が語る前原寅吉」

開催日：令和7年10月4日（土）、10月5日（日）

講師：MAEBARA 前原 俊彦 氏

内容：①テレビドラマとなった前原寅吉の紹介

②前原寅吉のその生涯八戸今昔写真の紹介

参加者：①25名、②32名



曾孫が語る前原寅吉

(3) アート×幼児教育

子育て世代が美術館に気軽に来館できる機会と、学生の実践的な学びの機会を創出するため、八戸学院まちなかラボを活用した取組を行う。

①託児ルーム

美術館の展覧会の会期中、「八戸学院まちなかラボ」に、保育士を目指している学生が運営する託児スペースを開設する。

開設日：6月29日（日）、7月6日（日）、8月17日（日）、9月7日（日）、10月5日（日）

開設時間：10:00～16:00（午前：10:00～13:00、午後：13:00～16:00）

指導教員：八戸学院大学短期大学部幼児保育学科 教授 加藤康子 氏

5 賑わい創出事業

美術館を身近なものに感じてもらうとともに、中心街の活性化に寄与することを目的に、館内や美術館広場（マエニワ）を活用したイベント等を開催する。

(1) ヨルニワ

八戸市更上閣・はっち・美術館を会場に、キッチンカーや飲食屋台と音楽ライブを楽しむ。

開催日時：①令和7年6月7日（土）18:00～19:30

②令和7年10月4日（土）18:00～19:30

開催場所：マエニワ

内容：①WILD WIND BIG BANDによるジャズ演奏。キッチンカー出店。

②エイトジャズバンドによるジャズ演奏。キッチンカー出店。



6/7 ヨルニワの様子

(2) 音楽の夕べ（はちのヘホコテン連携）

美術館・マエニワで音楽と飲食を楽しむ。

開催日時：令和7年8月30日（土） 18:00～19:30

開催場所：マエニワ

内容：デビッド・マシューズ＆八戸ジャズ楽団によるジャズ演奏。キッチンカー出店。

(3) 八戸三社大祭賑わい広場

八戸三社大祭の期間中、マエニワに飲食屋台やキッチンカーが出店したほか、開館時間の延長やテラスを開放して、市民や観光客が滞在できる場を提供した。

開催日時：令和7年7月31日（木）～8月4日（月） 10:00～21:00

開催場所：マエニワ



八戸三社大祭賑わい広場の様子

6 共創パートナー事業・共催事業

（1）共に創る！アートのまちづくり魅力発見事業

八戸歴史文化発信事業実行委員会（事務局：八戸クリニック街かどミュージアム）と連携し、美術館の共創パートナーを募り、各々で行われている文化芸術イベント情報を紹介・連携する。

・LINE 公式アカウント「ヨッテミッテ」による情報発信（友だち登録 964 人、10/25 現在）

（2）令和7年度白マドの灯「街の灯プロジェクト」

八戸市美術館外壁に名作映画等の映像を投影し、文化的な街の景観を演出することにより、市民に映像文化に親しんでいただく機会を提供する。

開催日：令和7年5月から10月まで 毎月第1、第3の金曜日 日没後

6月6日（金）、6月20日（金）、7月4日（金）、7月18日（金）、8月15日（金）

9月5日（金）、9月19日（金）、10月3日（金）、10月17日（金）

主催：八戸クリニック街かどミュージアム（館長兼学芸員 小倉学氏）

共催：八戸市美術館



映画上映の様子

7 その他

(1) 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を開催。収蔵品の取扱や展覧会構成の模擬演習を実施した。

日時：令和7年8月18日（月）～8月22日（金）



(2) マチナカまるっと1日体験事業

市が中心街の公共施設で中高生に働く体験を提供し、まちづくりへの関心を高め、地元への愛着を育むことを目指す事業。参加者は「はっち」「八戸市美術館」「八戸ブックセンター」「YS アリーナ八戸」の4つの施設を巡り、業務スタッフ体験や1日館長体験を通じて、施設運営の大変さや楽しさ、施設本来の役割を発見する。

①スタッフ体験

実施日：令和7年8月7日（木）

参加者：中学生3名、高校生12名

場 所：八戸市美術館ほか

内 容：1日で4館を周り、スタッフ体験を実施



スタッフ体験

②1日館長体験

実施日：令和7年8月20日（水）

参加者：高校生3名

場 所：八戸市美術館ほか

内 容：各館1日館長として、館長業務を体験



館長体験

II 下半期の主な事業

1 展覧会

①巡回展「古代エジプト美術館展」

日本唯一の古代エジプト専門美術館である「古代エジプト美術館 渋谷」のコレクションを紹介。ミイラやミイラマスク、木棺、神殿の柱、ツタンカーメンの指輪といった世界的に貴重な遺物や、当時の生活様式がわかるジュエリーやレリーフなど約 200 点を展示。

■会期：令和 7 年 10 月 11 日（土）～12 月 15 日（月）

■主催：デーリー東北新聞社 共催：八戸市美術館



《ミイラマスク／プトレマイオス朝時代》



《ホルスの 4 人の息子たちの護符とプタハ・ソカル・オシリス神のミイラ／末期王朝～プトレマイオス朝時代》



《人型木棺／プトレマイオス朝時代初期》

②コレクションラボ 011 「きっと、そこには」

作品に描かれているものや、そこには描かれていないものを探り、想像しながら見ることで新たな鑑賞の楽しみ方を探る展覧会。「きっと、そこには」をキーワードに、想像しながら鑑賞を楽しむことができる鑑賞ワークシートを用意している。

■会期：令和 7 年 9 月 13 日（土）～12 月 8 日（月）



今川和男《牧童》1963 年



鑑賞ワークシート



③特別展「GOMA 展 WONDER」

青森県在住の画家 GOMA による展覧会で県南地方初開催。令和 4 年夏、七戸町で行われた GOMA 展は 4 万人以上が訪れた。今回の展覧会に向け、多くの新作を制作中で、これまでの GOMA 展とは違った新たな「WONDER（不思議な驚きと奇跡）」を体験できる。

■会期：令和 8 年 2 月 14 日（土）～3 月 29 日（日）

■主催：株式会社 GOMALABO 共催：八戸市美術館



④コレクションラボ 012 「渡辺貞一」

青森市出身で、八戸ゆかりの作家と交流があった渡辺貞一の作品及び世界観を紹介。渡辺と交流のあった画家たちの作品や、当時を知る人物へのリサーチ報告などを交えた展示を想定している。

■会期：令和7年12月13日（土）～8年3月23日（月）



《貧しき漁夫》

《羅針儀の風景》

《東方の泉》

2 学校連携事業

④はみだす力展開催

全国の幼保・小中・高・大学の図工美術教育の授業や造形活動の様子、その実践から生まれた作品を展示する。令和8年1月22日から25日までの期間、ギャラリー1・2、ジャイアントルーム展示エリアを予定。



R6 はみだす力展 展示状況

3 大学・高専連携事業

大学資産を活用したアートの学び事業

(1) 高等教育機関のアートセミナー事業

①第2回「流れの不思議と美の世界」

開催日：令和7年11月3日（月）

講師：八戸工業大学 学長 船崎健一 氏

内容：流れの不思議と美の世界の関係性を流体力学という学問を使って説明するとともに、簡単な実験をして流れが描き出す形やパターンを作り出し、スマホで撮影して鑑賞する。

②第3回「未定」

開催日：令和8年1月25日（日）

講師：八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科 講師 渡邊雄介 氏

内容：未定

③第4回「(仮) 親子で作ろう 新幹線模型」

開催日：令和8年2月1日（日）

講師：八戸学院地域連携研究センター センター長 福田弥夫 氏

内容：ボール紙や厚紙に印刷された新幹線や鉄道を切り取って組み立てる。

(2) アート×幼児教育

子育て世代が美術館に気軽に来館できる機会と、学生の実践的な学びの機会を創出するため、八戸学院まちなかラボを活用した取組を行う。

①託児ルーム

開設日：1月 25 日（日）

②ワンパーク

小さな子供とその家族で交流し、遊びからアートの創造に繋がるきっかけをつくる。

開設日：令和7年 11月 1日（土）、12月 6日（土）

開催場所：ジャイアントルーム

指導教員：八戸学院大学短期大学部幼児保育学科 教授 差波直樹 氏

③ベビーファーストデー

保育士を目指している学生が展覧会鑑賞時のサポートや託児サービスを行う。

開設日：令和7年 11月 10日（月）、令和8年 3月 2日（月）

開設時間：13：00～16：00

指導教員：八戸学院大学短期大学部幼児保育学科 教授 加藤康子 氏

4 賑わい創出事業

(1) 八戸えんぶり in 美術館

開催日：令和8年 2月 17日（火）～20日（金）のうち 1日

場所：ジャイアントルーム

内容：市内えんぶり組によるえんぶり公演

(2) 春休みイベント

開催日：令和8年 2月～3月

場所：館内

内容：親子で創作を楽しむことができるイベントを開催

5 共創パートナー事業・共催事業

(1) 共に創る！アートのまちづくり魅力発見事業（再掲）

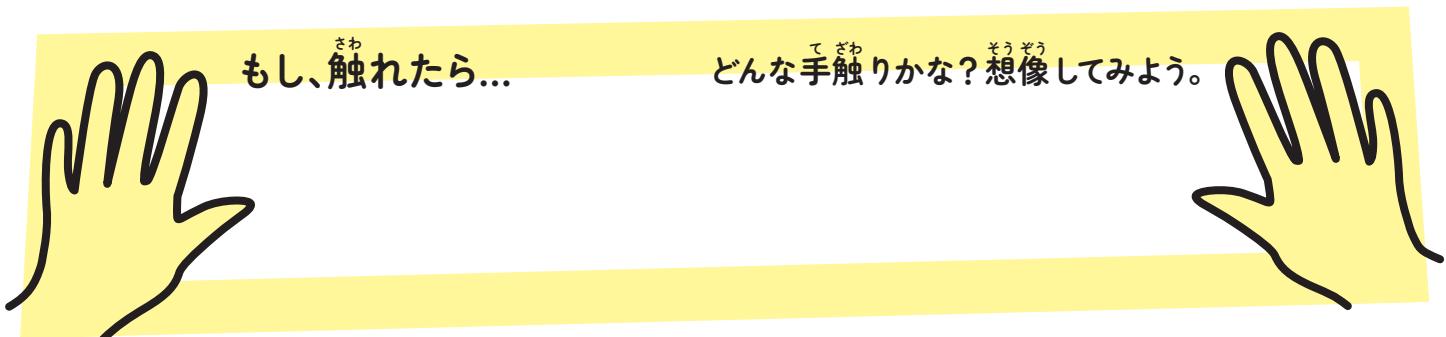
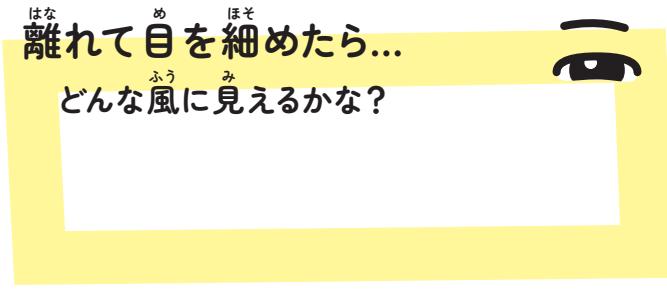
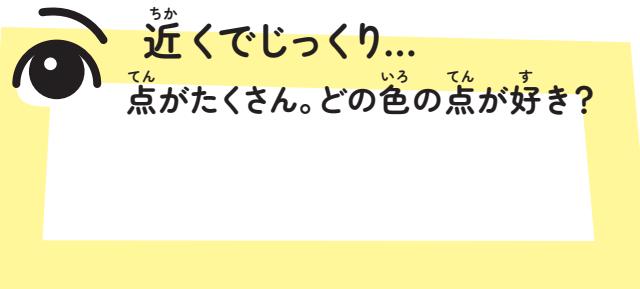
・「街なかアートマップ」の作成・配付（B3サイズ 数量 10,000部）

・パートナーミーティングの開催（3月頃）

ここはアートの研究所。あなたは今日から研究員！不思議を見つけて、自分だけの発見をしよう！

もっと、**楽しむ！研究** シート

作品名 初秋



ドンと座ってひと休み...
なに たべ なに の
何を食べよう？何を飲もう？



- ラボ 研究シートはテーブルにあるファイルに綴じるか、お持ち帰りください。
- ラボ この研究シートは「学校連携プロジェクトチーム」の先生と作ったワークシートです。

コレクションラボ 011

きっと、そこには

さくひん み しつもん こた
作品を見て、質問の答えを
じゅう そうぞう
自由に想像してみてください。

あたま なか かんが
頭の中で考えるだけでも、
か こ
このシートに書き込んでもよいです。

なぜそう思ったかも教えてください。

うらめん さくひん くわ じょうほう
裏面には、作品の詳しい情報があります。

ひだり じょせい きも
左の女性はどんな気持ちで
ある
歩いているでしょうか。

きっと、この女性は…

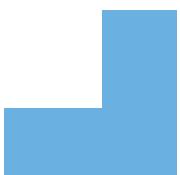


画面の右側に立つ人々は、
た ひと
何を話していると思いますか。

きっと、話しているのは…

みち ま さき なに
道を曲がった先には何があると
思いますか。

きっと、この先には…



この作品のきっと、そこには、あなたが想像する何かがあるかもしれません。
題材・時代・季節・天気・におい・作者の気持ち・画面の外のこと…、自由に想像してみましょう。

作品名 | 帰り道

作者 | 今川 和男

制作年 | 不詳

サイズ(cm) | 90.9×116.7

材質・技法 | キャンバス、油彩

今川は「海外を渡り歩くのは人々との温かさに触れ、終極的には自分の住んでいる風景、足元をみつめなおすために大変役立つと思うから」と語り、毎年のようにヨーロッパやアラブ諸国にスケッチ旅行に行きました。画面を半分に割る光と影の対比が印象的で、右は車や人々から賑やかさを、左はビルの陰と背中が丸まった女性から哀愁を感じさせます。《帰り道》はこの女性の帰路のことでしょうか。または今川が旅行先の帰り道で見た風景そのものかもしれません。

今川 和男(1940-2025)

五戸町(旧倉石村)出身。武蔵野美術大学を卒業後、中学校の教員になりますが、画家を志すために34歳で辞め、八戸市根城にアトリエを構えます。「今川美術研究所」を開くほか、八戸工業大学第二高等学校美術コースの創設に携わりました。1983年、84年、86年に安井賞展に入選。1985年に青森県芸術奨励賞を受賞、2008年に八戸市文化功労者に選ばれます。馬や奥入瀬渓流、地元や海外の風景などを生涯描き続けました。

鑑賞シートはテーブルにあるファイルに綴じるか、
お持ち帰りください。

令和7年度主な事業と第2期八戸市美術館中期運営計画のミッションとの関係

